

平成 3 0 年 度

四條畷市学校適正配置審議会（第2回） 会 議 録

四條畷市教育委員会事務局

四條畷市学校適正配置審議会

1 平成30年10月15日 午後2時00分四條畷市役所東別館2階201会議室において、四條畷市学校適正配置審議会を開催する。

2 出席委員

会	長	藤村	裕爾
副	会	長	小林 初根
委	員	川端	正
委	員	藤谷	恵子
委	員	三ツ川	敏雄
委	員	和田	行弘
委	員	大野	友己
委	員	上村	賢吾
委	員	二見	真美
委	員	丹治	千津子
委	員	羽森	清司
委	員	堀	俊治

3 欠席委員

委	員	奥村	まどか
委	員	島本	洋子
委	員	脇所	正恵

4 事務局出席者

		教育総務課長	板谷 ひと美
教 育 次 長			
兼 部 長	開 康成	教育部上席主幹	木村 実
教育部次長			
兼学校教育課長	上井 大介	施設再編室長兼課長	南森 淳一
施設再編室			
上席主幹	藤井 道幸	教育総務課	井上 裕可

5 会議録作成者

教育総務課 井上 裕可

6 付議案件

案件 (1) 教育委員会が示す3つの課題について
案件 (2) 公共施設再編に向けた市長部局の動向について
案件 (3) 計画(案)に記載する整備に向けた着眼点と適正配置(案)について
案件 (4) 小規模校の解消と当面の対応策について

<p>上井教育部次長</p>	<p>定刻となりましたので、ただ今より、第2回四條畷市学校適正配置審議会をはじめさせていただきます。</p> <p>本日は、大変お忙しいなかお集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>なお、奥村委員、脇所委員、島本委員につきましては、本日の会議をご欠席される旨のご連絡をいただいておりますので、ご報告させていただきます。</p> <p>また、三ツ川委員につきましては、少し遅れて来られるとのことでご連絡をいただいております。</p> <p>本日机上配布させていただいている資料について、確認させていただきます。</p> <p>配席図、第1回審議会会議録、川崎地区より小学校区についての要望書、資料1から3、エリアのリ・ブランディングセミナーのチラシ及び四條畷南小学校の指定校(進学先)に関する意見交換会について、というご案内をクリップで留めてお配りしておりますのでご確認ください。</p> <p>また、茶封筒のなかの資料につきましては、無駄使いをやめ地域を大切にする条例制定運動、横溝様、早田様より、意見書が提出されましたので、併せて配布しております。</p> <p>配布させていただいた、平成30年度 四條畷市学校適正配置審議会(第1回)会議録についてでございますが、事前に委員の皆さまへお送りし、一部修正したものとなっております。</p> <p>この会議録に関して、第1回審議会の会議録として決定していいかの審議をお願いいたします。</p> <p>なお、決定後は、市のホームページにて公開させていただきますので、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。</p> <p>事務連絡は以上です。</p> <p>これ以降の会議につきましては、藤村会長に進行をお願いします。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>それでは、本日もよろしくお願いいたします。</p> <p>2時間という長丁場となっておりますが、案件が4つもありまして、精力的に進めていきたいと思っております。</p> <p>委員の皆さま、第1回会議録につきまして、事前に確認いただいていると思っておりますが、追加で修正等はございますでしょうか。</p> <p>(「なし」の声)</p>

藤村会長	<p>特にないようですので、これを第1回の会議録としてよろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>
藤村会長	<p>これをもちまして、第1回審議会の会議録として決定いたします。</p> <p>それでは、審議に入りたいと思います。</p> <p>前回、かなり膨大な資料でご説明いただいたということもありますので、少し復習というか、振り返りをしていただいた後、いくつか保留となっていた点もあります。</p> <p>まずは、前回の審議会の振り返りを行いたいと思いますので、事務局より報告をお願いいたします。</p>
木村教育部上席主幹	<p>第1回審議会におきまして、平成27年3月に教育環境整備計画を策定以降の変遷について、ご説明申し上げたところではありますが、同計画の内容については、さらに認識を深め、後の議論に役立ててもらいたく、改めて、平成27年の教育環境整備計画の概要について報告申し上げます。</p> <p>資料1の(1)をご覧ください。</p> <p>左上をホッチキスで留めてあるものです。</p> <p>本計画の基本的な考え方として、本市の子どもたちに豊かな学びを、を合言葉に、少子化に伴う学校規模の適正化、同一小学校からの進学先の相違、校舎の老朽化、これら3つの喫緊課題を解消することを趣旨に策定しました。</p> <p>(2)をご覧ください。</p> <p>西部地区の校区再編案の基準は、国道163号とJRを校区の境界とする、また、自治会がその境界を跨ぐ場合は自治会の単位を優先するとしていました。</p> <p>具体的な学校再編案については、四條畷小学校、四條畷南小学校、四條畷東小学校、四條畷南中学校を廃校とし、四條畷南中学校の敷地に四條畷南小学校と四條畷東小学校の統合校とする新小学校を建設といった内容でございます。</p> <p>もちろん、当時の計画の段階では、四條畷南中学校に活断層が存在し、敷地の半分以上が土砂災害警戒区域にあることは把握をしていましたが、警戒区域を避けて、敷地の西側に小学校を建設する、というものでございます。</p> <p>(3)をご覧ください。</p> <p>計画に対し適正配置審議会に諮問し、いただいた答申から抜粋して</p>

<p>(木村教育部上 席主幹)</p>	<p>これらは、教育委員会が掲げる3つの緊急課題の解消については、肯定的な提言をいただいています。</p> <p>続きまして、ただ今、ご説明のなか、お示しいたしました教育環境整備計画をもとに、平成26年度に市長部局にて取りまとめた、まちづくり長期計画、そして、現在諮問させていただいている学校再編整備計画(案)との関連性について、南森施設再編室長よりご説明申し上げます。</p>
<p>南森施設再編室 長</p>	<p>それでは、私から、平成27年3月策定の教育環境整備計画をもとに、事前に市長部局にて取りまとめた、まちづくり長期計画、そして、本審議会に諮問している学校再編整備計画(案)との関係性を踏まえ、ご説明申し上げます。</p> <p>超少子高齢人口社会の到来と学校教育施設をはじめ、多くの公共施設の老朽化が年々進んでいる状況を受け、教育施設の再配置を含む公共施設の再整備を、まちづくり計画と一体のものとして捉え、本市の将来を見据えた、まちづくりを取りまとめようと、教育部と都市整備部を中心に、関係部局と連携を密に図りながら、まちづくり長期計画を平成26年度に策定いたしました。</p> <p>まず、まちづくり長期計画の内容でございますが、資料2の左ページの下半分の部分の、まちづくり長期計画、検討内容Ⅰの箇所でございます。</p> <p>公共施設の配置の考え方ですが、市域の中心部を東西に結ぶ国道163号と忍ヶ丘駅と四条畷駅を南北に結ぶ東高野街道の2路線を基軸に据え、教育施設の再編によって生じる四條畷小学校と市民総合センターの敷地2箇所を利用のうえ、主な公共施設を集約する内容としております。</p> <p>次のページの上半分、検討内容Ⅱの箇所でございます。</p> <p>本計画は、2050年を到達点として、短期を2020年まで、中期を2035年まで、長期を2050年までとして取りまとめております。</p> <p>なお、小中学校の再編は2020年目標の短期に、再編により生じる跡地を活用した公共施設の再編は2035年目標の中期に位置付けた次第でございます。</p> <p>また、2050年の長期では、将来を見据えたハード対策等を盛り込む予定ではありますが、中期を終えての判断となることから、具体的には定めておりません。</p>

<p>(南森施設再編室長)</p>	<p>右下半分の部分でございます。</p> <p>このような経過のなか、国においては、基礎自治体に対し、人口減少社会の到来を踏まえた施設の最適化を趣旨とする公共施設等総合管理計画の策定を要請し、本市も国の求めに即して、平成28年度に、まちづくり長期計画の趣旨をもとに、2050年を期限に置く公共施設等総合管理計画を策定いたしました。</p> <p>また、総合管理計画のさらなる具体化に向けた個別の施設計画を作成すべく、施設利用率など各種データの整理や市民20人で構成するワークショップの開催など、種々の作業に取り組む最中でございます。</p> <p>一方、教育委員会では、平成29年1月の東市長就任を機に、まちづくり長期計画、中期計画に示す、四條畷小学校跡地を活用した公共施設の集約は行わず、当校の廃校や四條畷南中学校敷地への新小学校建設が留保となったため、教育環境整備計画を見直すべき局面にあることから、現在、改めて、学校再編整備計画の策定を進めているところです。</p> <p>なお、この計画は、公共施設の最適化に繋がる内容となり、従いまして、市長部局が担う公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の一部としての位置付けをなし、学校教育施設のみの再編案を先行し、策定するものでございます。</p> <p>以上、教育環境整備計画をもとに、事前に市長部局にて取りまとめた、まちづくり長期計画、そして、本審議会に諮問している学校再編整備計画（案）との関係性についてのご説明とさせていただきます。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>私なりにまとめますと、要は、変遷はあったけれども、先ほど言われた3つの緊急課題については、依然状況は変わらず、引き続きこれは課題として考えている。</p> <p>また、この審議会に諮問した学校再編整備計画は、公共施設等総合管理計画のなかに位置付けられて、この審議会として考えていくという理解でよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、何かご意見や質疑等ございませんか。</p> <p>(「なし」の声)</p>
<p>藤村会長</p>	<p>それでは、今の説明についてはここまでとします。</p> <p>前回の審議会のなかで、2点ご意見を出されて、保留としていた事項があったと思います。</p> <p>1つは、国道163号以南、JR以東地域における地域の活性化についてと、四條畷南小学校保護者あてのアンケート結果、この2点に</p>

(藤村会長)	<p>ついてご説明いただけたらと思います。</p> <p>まず、1点めの地域活性化について、ご説明いただけますでしょうか。</p>
開教育次長	<p>前回、地域の活性化については、三ツ川委員の方からご指摘いただいております。</p> <p>もうしばらくでご到着されると聞いておりますので、順番を入れ替え、四條畷南小学校のアンケート結果について、先にご報告させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
藤村会長	<p>はい、わかりました。</p>
木村教育部上席主幹	<p>それでは、資料3をご覧ください。</p> <p>南小学校の保護者を対象とした指定校、進学先に関するアンケートの結果の概略について、報告申し上げます。</p> <p>実施期間は10月4日(木)から12日(金)とし、家庭ごとに1枚の配布で総配布数は151通、回答数は142通で回収率は94%となっております。</p> <p>これは、10月12日(金)時点での集計となります。</p> <p>内容についてですが、まず、どの学校に進学させたいですか、との問いにつきましては、四條畷中学校27件、四條畷西中学校に97件、その他私学など9件、回答なしが9件となりました。</p> <p>次に、学校を選ぶ際、考慮に入れた点について、多い順に、通学の距離、かかる時間、通学路の安全対策、友達関係、施設の整備状況、学校の教育活動となりました。</p> <p>指定校についての主な自由記述については、距離や時間、安全対策など通学に関するご意見、校風や風紀に関するご意見、学力に関するご意見、現在の両校の様子がよくわからないといったご意見がありました。</p> <p>総体的な意見、その理由として通学距離や通学時間が上位にあがるなど、以上の結果を受け、教育委員会といたしましては、四條畷南小学校の指定校、進学先を四條畷中学校から四條畷西中学校へ変更を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>その前段といたしまして、四條畷南小学校の保護者を対象に、10月20日にこのアンケート結果の報告とあわせて、今後の方向性について四條畷南小学校の保護者の方々と意見交換会を行い、続いて11月8日には、アンケートの結果に学校の様子がわからないというご意見がありましたので、四條畷中学校及び四條畷西中学校の学校見学会を実施することとしています。</p> <p>行程につきましては、資料3の右下に記載のとおりです。</p>

<p>(木村教育部上 席主幹)</p>	<p>あわせて、説明会に関する保護者あての案内文を資料として机上配布しておりますので、後ほどご覧ください。 以上です。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>ありがとうございます。 94%という、非常に高い回収率となっています。 このアンケート結果を見られて、四條畷西中学校の校長である堀委員、どのようにお考えで、また今後どのような展望か、お話しいただけますでしょうか。</p>
<p>堀委員</p>	<p>この結果につきまして、非常に多くの保護者、また子どもに、四條畷西中学校を選んでいただいているということ、非常に嬉しく思います。 やはり子どもたちにとって、距離の問題もあるのですが、四條畷西中学校自体も教育委員会の方で力を入れていただきまして、大規模改修が終わり、素晴らしい施設を伴った学校となりました。 そういうところに通いたいというご意見をたくさんいただいています。 そのなかで、通学距離が短いというのは、それだけ勉強やクラブ活動にける時間が多く取れるという効果もあります。 そういうことも、この結果にあるのではないかなと思います。 受入れ体制については、このように決まるということであれば、学校として全力をあげて対応していきたいと思っておりますし、全員が一気に来るといったことではないと聞いております。 四條畷南小学校の児童が増えるとなると、その分、教室の整備といった環境整備が必要となりますが、受入れについては十分可能だと思います。 昨年度、四條畷南中学校の生徒が四條畷中学校に転籍する際にも、両校間での会議等を行ったりと十分打ち合わせを行いました。 その時、私も参加しておりましたし、そのノウハウと言いますか、打ち合わせ事項というのは、身につけたものもあります。 また、子どもたちが頑張れる学校ということで、それらも考えながら、受入れていけたらと思います。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>中学校の校長として、受入れ体制を整えていきたいというご意見をいただきました。 ご質問やご意見等ございますか。</p>

羽森委員	<p>四條畷南小学校から四條畷西中学校へ進学したいというご意見がたくさんあったかと思えます。</p> <p>私はこの3月まで、四條畷南小学校におりました。</p> <p>その時は、これほどまで、四條畷西中学校の方を進学先に希望されているとは感じておりませんでした。このような結果が出ているところを見ますと、今、四條畷西中学校が行っている取組みに対して、子どもたちがやる気をもって取り組んでいるというところを見ていただいているということと、校舎が綺麗にもなりましたし、新しい学校に行かせたいという保護者の気持ちも、ここに出ているのではないかなと感じました。</p>
藤村会長	<p>羽森委員からもあったように、保護者の方は非常に期待をされていると感じます。</p> <p>教育委員会としても、意見交換会や学校見学会も予定されており、十分理解を得ていきたいという努力のもと、進めていきたいと考えているとのことでした。</p>
三ツ川委員	<p>これらはアンケートに係る内容でしたが、もう1つ、四條畷南小学校と四條畷東小学校に分かれて通学している川崎地区について、前回、事務局と川崎地区の代表である三ツ川委員とで協議されると聞いていましたが、これについてはいかがでしょうか。</p> <p>事務局、あるいは三ツ川委員から、お願いします。</p>
三ツ川委員	<p>遅れまして申し訳ありませんでした。</p> <p>前回申し上げたように、審議会での話を持ち帰りまして、内容と資料を説明させていただきました。</p> <p>そのなかで、育成会の会長と話し合いを行いました。校区は一本化してほしい、一本化する先は四條畷南小学校が良いというご意見でした。</p> <p>多数決で決めるべきものではないと思いますが、保護者からはそういう声が圧倒的に多かったです。</p>
藤村会長	<p>その結果を受けて、要望書をご提出されたということでしょうか。</p>
三ツ川委員	<p>そうですね。</p>
藤村会長	<p>この件についての取り扱いはどうなりますか。</p>
開教育次長	<p>学校再編整備計画（案）では、川崎地区において、四條畷東小学校の廃校に伴い、四條畷小学校と四條畷南小学校に分かれて通学するこ</p>

<p>(開教育次長)</p>	<p>とになりますので、事務局と三ツ川委員とで協議をさせていただき、その結果が、10月10日付けの要望書であると受け止めております。</p> <p>この案件につきましては、最終は、教育委員会のなかで決定をしていくこととなりますが、やはり、地域の思いを大切にということでこの計画を進めておりますので、要望書の内容については善処しつつ、進めてまいります。</p> <p>なお、この案件は、先ほどご説明いたしました四條畷南小学校の進学先にも関わってまいりますので、10月の教育委員会定例会へ提出を予定しております。</p> <p>また、川崎地区と同様の状態にある塚米地区にも、川崎地区の動向をご説明しながら、判断をいただきたいと考えております。</p> <p>加えて、四條畷南小学校からくすのき小学校へ段階的な転籍を行っている美田地区、また、中学校の近接性から他と違う措置を行っている中野新町地区にも、現在の状況をご説明に上がる予定です。</p> <p>以上の経過については、次回の審議会にてご報告させていただきます。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>要望書につきましては教育委員会でご議論いただいて、次回でご報告をよろしく申し上げます。</p> <p>2点めの、三ツ川委員からご意見がありました、地域の活性化について、事務局よりお願いいたします。</p>
<p>板谷教育総務課長</p>	<p>先般、三ツ川委員よりご意見いただきました、国道163号以南、JR東側の地域活性化について、ご説明いたします。</p> <p>当該地域の衰退に関しましては、地域との意見交換会においても、コミュニティ機能、防災機能の低下という視点からのご懸念、ご要望をたくさんいただきました。</p> <p>これを受けまして、まちづくり全体の観点から、学校の存廃に留まらず、学校が担ってきた役割を引き継ぐ何らかの対策が必要との思いから、近隣の教育文化センターを含む四條畷南中学校跡地の活用について、教育委員会の方から市長部局あて具申いたしました。</p> <p>一方、市長部局では、先ほどご説明にもありましたように、公共施設の再編を検討するなか、8月上旬から市民ワークショップを開始いたしまして、集約や利活用についての検討を行われている最中にございます。</p>

<p>(板谷教育総務課長)</p>	<p>先般、10月10日(水)に、このワークショップの成果発表会の形での提案を受けられたところでございます。</p> <p>このようななか、他市から年少人口を呼び込む市全体の地域活性化策といたしましては、在住する子育て世代にとって、時宜を得た効果的、複数の施策を講じていくことをねらいに、昨年度、子ども子育てプロジェクトを立ち上げ、こちらの推進を行っていくことはもとより、当該エリアが、楠公通り商店街や栄通り商店街といった商業地域に近接しているという特性を活かし、既存エリアに新たな価値を創造する、リ・ブランディングの取組みを、今年度より進められているところです。</p> <p>机上に、先日開催されたセミナーのチラシをお配りしておりますが、具体には、商店街の事業主の方や、若者等の新規創業の希望者、また、不動産オーナーや新たな行動を起こしたいというまちづくり人材が集い、エリア内の基礎調査や魅力向上に資する戦略づくりをはじめ、人材発掘セミナーや創業希望者と不動産オーナーとのマッチング等を通じ、エリアの新陳代謝をめざすものでございます。</p> <p>これらに併せ、教育委員会といたしましては、公教育の公平性を担保しながら、近々に実施される新学習指導要領に基づく取組みを基盤に、本市の実情に沿う魅力ある教育実践に努めていきたいと考えております。</p> <p>当該エリアの地域活性化策については以上です。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>前回、三ツ川委員の方からもございましたが、学校というのは、地域そして子どもにとっての活動の場であるとともに、活性化、防災の拠点でもあり、そのことについては十分配慮していただきたいという意見だったと思います。</p> <p>今、その回答について、事務局から説明がありました。</p> <p>このことについて、三ツ川委員からご意見や質疑等ございませんか。</p>
<p>三ツ川委員</p>	<p>遅れてきたもので、あまりうまく言えないかもしれませんが、要は2つの役割があると思います。</p> <p>1つは箱としての役割、もう1つは実際の機能としての役割です。これらはハード面とソフト面になると思います。</p> <p>ハード面で考えると、今の案だとなくなる可能性があります。これはあくまでセミナーであって、ソフト面になります。</p> <p>ソフト面の充実がハード面として代わるのかというと、そうではないと思うんですね。</p> <p>さきほどお話があったようにまちづくりの観点から教育文化セン</p>

(三ツ川委員)	<p>ター等の敷地に施設を建てるというものですが、ハード面でどのような施設を建てるかということは、検討されているのでしょうか。</p>
南森施設再編室長	<p>今、四條畷南中学校の跡地の活用という部分で、先ほどありましたワークショップや我々のなかで、災害の拠点となり地域のコミュニティ施設となるように、ということで、既存の校舎も活用しながら、どのようなハード整備ができるかということについて、現在検討中でございます。</p>
三ツ川委員	<p>ということは、まだはっきりとはわからないということでしょうか。</p>
南森施設再編室長	<p>はい。 まだきっちりしたものは、現段階といたしましては、未定という状況でございます。</p>
上村委員	<p>既存の校舎を利用という形が少し引っ掛かったのですが、四條畷南中学校の敷地が活断層や土砂災害警戒区域にあるにも関わらず、そこを再利用するというのはおかしいかなと思います。</p>
南森施設再編室長	<p>言葉たらずで申し訳ありません。 もちろん、活断層が通っているということと土砂災害警戒区域のなかにあるということですが、いずれにもかかっているエリアがございますので、そのエリアの既存校舎について、利活用はまだ決定しておりませんが、せつかくある施設ですし、我々が公共施設の劣化診断調査を行いまして、骨組みは問題ないという結果もございましたので、できるだけ今の状況に支障のない範囲で校舎の利活用を検討していきたいということです。</p>
上村委員	<p>使えるところは使っていこうということですね。</p>
川端委員	<p>関連してですが、今、上村委員がおっしゃったように、今ある校舎をいじってセンターを建てるのであれば、なぜ学校ができないのでしょうか。 学校としてできないのは活断層があるからだと言われていますが、そこを避ければ、私は学校として運用できると思うんです。 ただ、私は先日から話を聞いていて思うのは、教育委員会が一旦決めた案件に基づいて進むということが強いのではないかと。 活断層があるのなら、どこまで逃げたらいいのかということを考えてほしい。</p>

<p>(川端委員)</p>	<p>先ほどからあるように、地域性を考えてほしいと思います。</p> <p>土砂災害にしても、今現在、土砂があそこまでいくとは思わないし、ないと聞いております。</p> <p>活断層があつて、土砂災害警戒区域にあるので、これはできません、と決められたことに基づいたことしかできないのか、と思うわけです。</p> <p>ただ、四條畷小学校にしても、四條畷中学校にしても、学校を新しく整備していかなければならない。</p> <p>四條畷南小学校も整備しなければならない。</p> <p>四條畷西中学校は、整備して綺麗になっているというだけでしょう。</p> <p>全部の学校を綺麗にすれば、先ほどのアンケート以外の答えも出てくるんじゃないかと思うんです。</p> <p>また、繰り返しになりますが、四條畷南中学校を廃校にするということありきに物事を進められているのではないかなと感じます。</p> <p>もう少し考え方があるのではないかなと思います。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>前回もご意見が出たかと思いますが、結論ありきではなくて、ベターな考え方として教育委員会から提案され、それに基づいて議論していきましょうということですから、今のようなご意見をいただいたのかなと思います。</p>
<p>開教育次長</p>	<p>今、川端委員から多岐にわたるご意見をいただいたと理解しております。</p> <p>まず整理をさせていただきたい点ですが、公共施設の再編に際し、教育文化センターの敷地を含む、四條畷南中学校の敷地を利活用して、防災拠点あるいは地域コミュニティ等を整備していきたいということを市長に申入れしています。</p> <p>学校が担ってきた役割については十分認識しておりまして、それに代わるものの整備が必要ということで、国道163号以南、JRより東側、この地域については必要と認識しております。</p> <p>もう1点、四條畷南中学校の廃校が前提というお話ですが、これについては前回もご説明させていただきましたが、小学校、中学校で小規模校化している学校が3校ございます。</p> <p>3つの緊急課題の1つということで、解消していかなければならないという認識のもと、先ほど会長からお話があったとおり、最終的にはすべては解消できないながらも、よりベターということで、3校のうちの2校を解消するというので今回の案をまとめました。</p>

<p>(開教育次長)</p>	<p>特に、中学校部分の小規模校化というのは、我々の考えている小規模校のデメリットに加え、学校運営上、中学校は教科担当制ということで、その人事配置について支障をきたす、また、子どもたちの心身の育みという観点で、クラブ活動においても一定の制限がかかるということで、我々は判断させていただいたという状況です。</p> <p>ただ、四條畷南中学校を、前提のもと廃校にしたのではなく、小規模校化とあわせて、土砂災害警戒区域に存在し、その敷地内に活断層がある、この3点を総合的に勘案して、四條畷南中学校の廃校はやむを得ないと判断したという状況です。</p> <p>また、費用対効果の観点からご質問いただいております。</p> <p>これについては、当初、我々が示した7案について、それぞれに必要な経費を取りまとめています。</p> <p>ただ、財政状況厳しい本市におきましては、すべての学校を改修、改築等を行えば、膨大な費用がかかる、そうなれば、ソフト面、ハード面、両面にわたる充実した教育環境の整備が伴わないという点から、一定の統廃合はやむなしとの関係上、今回の案にまとめたものでございます。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>この件につきましては、この後の審議事項のなかで具体的な話も出てくるかと思しますので、先に進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、審議に入りたいと思っておりますが、4点ございます。</p> <p>あと1時間半程度で4点について議論していくことになるのですが、この審議に入る前に、1点、少子化の流れのなかで、小規模校化に伴う課題が全国で出てきていることについて、少し触れたいと思っております。</p> <p>平成28年の文部科学省の調査のなかで、市区町村で適正規模に課題があると回答した自治体は8割にのぼりました。</p> <p>2割は、課題は今のところ解消しているということでした。</p> <p>この8割のなかで、4割が、まだどうしていいのか検討の予定は立っていない、6割が検討しているという状況でした。</p> <p>この、全国的にも非常に大きな課題を議論しているのだと、皆さんにも認識していただいたうえで、審議していただきたいと思っております。</p> <p>それでは、案件1について審議したいと思っております。</p> <p>これまでも言われてきた3つの緊急課題について、審議していきたく</p>

<p>(藤村会長)</p> <p>上井教育部次長</p>	<p>いと思います。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p> <p>今回諮問させていただきました、四條畷市学校再編整備計画（案）の基本方針に示す3つの課題は、平成27年3月策定の教育環境整備計画にも位置付けており、現在も普遍的なものと認識しております。</p> <p>状況について、個々ご説明いたします。</p> <p>まず、少子化に伴う学校の小規模化については、現在、四條畷南小学校、四條畷東小学校で小規模化しており、今年度は通常の学級で四條畷南小学校が191人で6学級、四條畷東小学校が220人で7学級となっております、クラス替えができない現状にあります。</p> <p>当該2校においては、子ども同士が深くつながり理解し合える、また、運動場や特別教室等の運用面で余裕があるといったメリットはありながら、児童にとってはクラス内での立ち位置が固定化されるといったデメリット、また、教員にとっても一人でいくつもの分掌を抱えざるを得なくなる等、教材研究や児童との関わりの時間確保等の視点から、勤務に負担が生じている状況でございます。</p> <p>次に、同一小学校からの進学先の相違については、過去、2つの小学校、四條畷小学校と四條畷南小学校になりますが、これらにおいて、ごく一部の卒業生が違う中学校に進学する状況にありました。</p> <p>当該校においては、6年生になる前から、保護者から担任や管理職に対して、児童の円滑な通学、心的な不安をやわらげたく、他の児童と一緒に同じ中学校に通えないか、また、通う方法はないかといった相談をいただくなど、実際に同じ中学校区に通うために転居するといったケースもあったように聞き及んでおります。</p> <p>また、受入れ側の中学校においても、ごく少数の生徒が円滑に入学し、中学校生活を送れるよう様々な工夫や配慮を行っていますが、当該児童や保護者にとっては大きな問題であったと容易に理解が及びます。</p> <p>なお、この件については、今回の学校再編に先んじて、概ね解消に至っている状況です。</p> <p>最後に、校舎の老朽化については、整備計画（案）の7ページから9ページまでに記載しているとおり、学校校舎は建設後、かなりの年数が経過していることから、評価についても決して良好でないことが見て取れると思います。</p> <p>加えて、各校においては、雨漏りの対応や、壁面の剥離などといった施設の維持管理についての課題が常態化しており、早期の改善が望まれている状況でございます。</p>
------------------------------	---

<p>(上井教育部次長)</p>	<p>以上のように、3つの緊急課題すべての解消をめざしつつ、それらを実現できる学校再編整備計画を着実に進めていくことも意識しながら、進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>なお、この度の整備計画(案)と平成27年3月策定の教育環境整備計画とは、3つの緊急課題を一としながらも、四條畷南中学校敷地への新小学校建設、国道163号とJRによる4分割の考え方、西部地区の2小1中の考え方、四條畷小学校及び四條畷南小学校の存続、これら4点については差異が生じております。</p> <p>これらについて、関係されておられた委員の皆さまから多方面からのご意見を頂戴できればと考えております。</p> <p>どうぞ、よろしく願いいたします。</p>
<p>羽森委員</p>	<p>それでは、これら3点について、順を追って審議していきたいと思っております。</p> <p>1点めの、少子化に伴う学校規模の適正化についてですが、文部科学省は、適正規模という言葉でなく、標準規模という言葉を使っており、小学校では1学年2クラスから3クラス、全体で12クラスから18クラス、中学校では1学年4クラスから6クラス、これも全体で12クラスから18クラスが、学校を運営していくうえでの標準規模と打ち出されています。</p> <p>なおかつ、そのなかでは、この示している標準規模については、特別な事情がある時はこの限りではないと、弾力的に考えるよう意見が出されていると法律で書かれていると聞いております。</p> <p>この少子化に伴う学校規模の適正化について、学校関係者あるいは保護者の方から、実際にどのように考えておられるのかお話を伺いたいと考えております。</p> <p>指名して申し訳ありませんが、これまで小規模校、現在は四條畷小学校の校長をなされている羽森委員に、ご経験を含め、どのようにお考えかお話していただけますでしょうか。</p> <p>まず、少ない人数の学校というのは、保護者の方からすると、少ない人数できめ細かく子どもたちを見ていただけたらとか、フレンドリーな形で学校を運営されているとか、非常にいい面で評価をいただいている点もあります。</p> <p>しかし、先ほど教育委員会から説明もありましたが、子どものことに関して、それから教職員のことに関して、また、その他のことに関して、私は課題があると感じております。</p>

(羽森委員)

まず1つは、集団のなかで子どもたちが育っていくわけですが、たくさん子どもがいれば、それだけ多様な考えに触れる機会も増えてきますが、学年1クラスしかない状況になると、切磋琢磨する機会が減るのではないかなと思います。

また、クラス替えがないことも先ほどご説明がありましたが、1学年1学級ということになりますと、クラス替えがないまま6年生まで進んでいくということになりますので、そのなかで、上手くいっている場合はいいですが、関係が悪くなっている場合に、そのまま学年が上がっていくことは、該当の子どもたちにとっては厳しいのではないかと考えられます。

次に、教職員のことを申し上げるのはどうかなとは思いますが、教職員の仕事の量が、小規模校と大規模校では違います。

学校というのは、どこの学校でも同じことを1年間やっていきますので、たくさん的人数で仕事を分担する場合と、少ない人数で仕事を分担する場合とでは違ってきます。

どうしても、四條畷南小学校のような小規模校だと、1人の担う仕事が多くなります。

そうすると、子どもたちと関わる時間が少なくなるとも考えられますし、そこを何とかしたいとはずっと考えておりました。

また、教職員というのは、子どもたちに色々なことを教えていくうえで、常に研修を受けて研究をしていくことが必要ですが、この研究も、先ほど申し上げたとおり、人数が多く多様な考え方がある職場と、人数の少ない職場では、考えに偏りが起きてくる場合が出てきます。

そういう点におきましても、教職員の人数もある程度多い方がいいということが考えられます。

また、教職員が出張した場合についても、小規模校で補欠に入る教職員が少なく、なかなか出張にも行きづらくなります。

そうすると、研修に行って自分の力を伸ばしていきたいと考える教職員にとっては、少し制限がかかることが考えられます。

最後に、その他のことですが、PTAのことに関して、今日もPTAの会長さんがいらっしゃいますが、このことについて少しお話ししたいと思います。

どうしても、四條畷南小学校のような小規模校の場合、役員を決めることが非常に難解で、役員になっていただく方が少なかったです。

少ない人数のなかで役員を選んでいかなければならない、その他の付随する委員も同じです。

加えて、PTA会費というものがどこのPTAでも集められていますが、当然、人数が多ければ、たくさんのPTA会費が集まってきま

<p>(羽森委員)</p>	<p>すので、その会費を使って、学校のPTA活動が行えます。 しかし、小規模校になると、集まってくるPTA会費も少なくなってくるので、その活動に制限が出てきます。</p> <p>このような、子ども、教職員、その他PTA等の点で小規模校をとらえていきますと、今申し上げたような考えが起こってくると思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>ありがとうございました。 保護者の立場から考えて、どのように感じられますか。</p>
<p>上村委員</p>	<p>僕も実は、四條畷南小学校と四條畷南中学校と2年間ずつPTA会長をやってきたのですが、本当に羽森委員のおっしゃるとおりです。 まず、何かしたい時にも、よその学校よりお金がない。 何か子どもたちを買ってあげたい、このご時世、熱中症とかもありますし、例えば立派なテントを寄付してあげたいとなったところで、お金がないので買ってあげられない。 また、ずっと見てきているなかで、運動会でも、同じクラスが赤組白組に分かれて競い合うというの、見てる方からしても何かおかしいかなと思うこともありました。 子どもたちの競争力もありますし、保護者の方から考えると、費用面であったり、役員決め、そういったところで厳しい。 いいところもあります。 羽森委員のおっしゃったように、知っている人ばかりが増えてきますので、仲良くはできますが、6年間のなかで2回も3回も役員をする方も出てきますし、非協力的な方も一定数はおりますので、役員を決める方の立場になった時にお願いしに行くことも大変ですし、しんどいところは多々あります。</p>
<p>藤谷委員</p>	<p>私は畑中地区の育成会の会長をやっております。 四條畷東小学校区で、この春から、四條畷南中学校から四條畷中学校に転籍しました。 子どもの意見ですが、四條畷南中学校ではクラブ活動がものすごく制限されていまして、部員がいなくて解散してしまったクラブもありすし、クラブ数もすごく少なくて、今まであったクラブをやりたくて四條畷南中学校に行ったのに、そのクラブがなくなってできなかったという意見もあります。 四條畷南中学校は2クラスしかなく、子ども同士の関わりがどうしても知った子ばかりとの関わりになりますので、四條畷中学校に行っ</p>

<p>(藤谷委員)</p>	<p>て、色々な子と関われるのがすごく良かったと感じています。</p> <p>小規模校でいじめにあったり、立場的に嫌な状況になった時に、クラス替えがない状況だと、すごく居づらくなって不登校になってしまったり、四條畷東小学校でも不登校の子どもが結構いるということを知っていますので、そういう問題の解消の点でも、小規模校だとなかなか難しいかなと感じています。</p> <p>やはり人数がある程度いる学校の方が、円滑に運営できるのかなと、子どもからの意見も含めて、個人的にはそう思います。</p>
<p>丹治委員</p>	<p>私は現在、四條畷東小学校のPTA会長をさせていただいております。</p> <p>まず、保護者の立場の意見からすると、今、私の上の子どもが6年生なんですが、1、2、3年生の時は2学級ありましたが、転校等がありまして、4年生から1学級になりました。</p> <p>今、藤谷委員からもあったように、四條畷東小学校は不登校が多く、6年生は特に多いのですが、どこから増えてきたかと考えると、4年生の1クラスになった時からなんですね。</p> <p>やっぱり2クラスから1クラスになったことで逃げ場がなくなる、この先ずっと同じ友達と、ずっと同じ仲間ではないといけないというところから増えてきたと思います。</p> <p>私の子どもからしても、やっぱり、クラス替えがないのもなあ、と言っています。</p> <p>行事等にしても、先ほど上村委員からもあったように、同じクラスを2つに分割して、赤白になります。</p> <p>じゃあ、赤組が勝ちました、となっても、同じクラスに白組がいるので喜べない、お互いのクラスで敵対するライバルなので、とても心持ちは難しいようなんですね。</p> <p>勝っても負けても複雑な感覚に陥るといふところもありますし、今年には特に少なく、5年生だけ2クラスで他は1クラスなんですが、雨で順延されたのもあって、午前中だけで終わるプログラムになりました。</p> <p>それって果たしてどうなのかなと。</p> <p>クラス数も少ないので、各学年の演技というのが、2学年ずつで3演技しかなく、1、2年の合同演技、3、4年の合同演技、5、6年の合同演技という形になります。</p> <p>それが小規模校でない場合は、1学年ごとの団体演技があると思います。</p>

<p>(丹治委員)</p>	<p>やはり、入りたての1年生と1年やった2年生とではできることも違って来るはずなんです、それを1年生に合わせて団体演技をしなければならぬ。</p> <p>2年生の保護者からすると、うちの子はもっとできるのに、という思いももちろんあるでしょうし、ということも感じました。</p> <p>また、PTAからすると、先ほど羽森委員からもあったように、選ばれる側の分母が少ない。</p> <p>私もPTAの役員をして3年めになりますが、この6年間で何もしていないのは1年だけです。</p> <p>その他は、各種委員を含めて5年、何かしらの役をやっています。それくらい、全員の保護者が何かしらの役をしないといけない状況になります。</p> <p>四條畷東小学校のPTAは、すべての行事を削減し、各委員、各役員の負担を減らしていくことしかできない。</p> <p>もちろん予算が集まらないということもありますが、すべてを削減していくしかないという状況になります。</p> <p>ということは、子どもたちに返せるもの、親として、保護者として、PTAとして何かしてあげたいということも小さくなって来るので、それが市内すべてを通して公平かという、小規模校の子どもたちにしてあげられてることが少なくなっているのではないかなとは、常に思っています。</p> <p>だから、子どもたちに対してだけは、何とかしてあげよう、いいことをしてあげようという保護者がいるから成り立っているという状況です。</p> <p>今、世間で言われている、アンチPTAのような方が多い学校であれば、確実に不可能になっていく。</p> <p>ただ、協力的な方がたまたま多いから、努力だけで成り立っているというところなのかなと思います。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>恐らく、この審議会では1番のポイントになってくるかと思いません。</p> <p>二見委員からも、お話いただけますでしょうか。</p>
<p>二見委員</p>	<p>二見でございます。</p> <p>前は時間の都合がつかず、申し訳ございませんでした。</p> <p>私は今、四條畷中学校の方でスクールカウンセラーとして、また、四條畷市全体のチーフとして、勤めております。</p>

(二見委員)

実際に、四條畷中学校にいて、子どもたちがどういう状況かと言えば、既に保護者の方々や羽森委員からもご意見があったように、小さい集団であると、人間関係が密になっていい点もあるのですが、逆に言えば、距離が近すぎてトラブルも多いということがあります。

その点で、四條畷南中学校で不登校だった子どもさんが、四條畷中学校に来たことで、全部ではないですが、少し不登校が解消され、学校に来れているという状況が実際に1例か2例あります。

そういった人間関係の煮詰まり感が、集団が大きくなることで、例えば仲の良かった生徒同士が、仲が悪くなったとしても、他にもたくさん子どもたちがいて、色んな考え方の子どもたちがいるので、こっちでしんどくなっても、じゃあこっちで一緒にいようよ、という形で、集団としてはより健全な状態になっているようには思います。

もちろん一長一短あるので、いいことばかりではないかもしれませんが、人間関係の煮詰まり感というのは1番大きく感じています。

あと、ご意見があったかと思いますが、四條畷中学校でも部活動が増えて、例えば四條畷南中学校の生徒が増えたということもあって、サッカー部ができて、サッカーしたいけど学校にはなかったという子が喜んで部活をしています。

そういった意味で、部活動が増えたり、行事のところでも、今まで小さい集団でやっていたことが、規模もすごく大きくなったので、そういった全体の意味で、今は少し慣れなくてしんどいな、という部分があるかもしれませんが、こんなことも考えると、より色んな人と関わっていくことの方が、子どもにとっては健全なモデルなのかなと思います。

三ツ川委員

一言だけいいでしょうか。

木を見て森を見ずという言葉がありますが、今回、学校規模の編成を今やっているわけですが、これを木とすれば、学校規模だけにとらわれて1番大事なポイントである教育上の問題とか、色んな大きな問題を逃しているのではないかと思うんですね。

何かと言いましたら、先ほど先生がおっしゃいましたよね。

統廃合して80%の不满があつて、そのなかで特に60%が問題だと。

これについては、私は1回めの会議の時に、会議が始まるということで、私なりに、間違っているかもしれませんが調べさせてもらいました。

1956年に、まだ文部省の時代に初めて、小規模校は統廃合しま

(三ツ川委員)

しょうということで、各地方自治体に国から指針を出しました。

標準規模が12学級から18学級で、小学校が4キロまで、中学校が6キロまでというものでした。

この指針を出した後、1973年に、Uターン通達という、それは間違いだったと、小規模校を統廃合にしたことについて非常に大きな誤りがあったということで通達を出しました。

このUターン通達をしてから40年後に、安倍内閣になって初めて、学校創生ということで2015年に新たに学校統廃合をしましょうというてびきを出した。

私が調べたなかではこういう歴史がありました。

これをそのまま四條畷市に置き換えた場合、何が問題なのかと考えたら、統廃合ばかりにとらわれがちですが、やはり前から何度も話しさせていただいているように、生徒ファーストですよ。

やはり、子どもたちにとって何が1番いいのかを考えて、それをベースに立ってやらないと、先ほどから出ていますように、クラブができなかったとか色々あります。

でも本当に、そこだけにとられるのか、それとも、もっともっと大事なところが欠けているのではないかなと、今それが何かと聞かれても答えられませんが、先ほど会長が、小規模校の統廃合を行って、色々な問題があったとおっしゃっていましたので、その辺はいかななものなのかなと思います。

藤村会長

私が先ほど申し上げたのは、小規模校の課題は8割の市区町村で起こっているということ、その課題について考えてはいるけれども、まだ議論はしていない市区町村が4割、議論を始めている市区町村が6割あるということ、だから、この課題は全国的な課題であり、文部科学省も調査をし、先ほど言われたてびき書も出した、つまり非常に重要な課題である、という説明をしたかったのですが、言葉たらずだったかも知れません。

子どもファースト、生徒ファーストという言葉を出されて、保護者の皆さんも、校長先生をはじめ二見委員も、子どものことを考えて、やはり一定の適正規模があるのだろう、というご意見だったかと思います。

出てきたご意見で言いますと、学校運営について校長先生よりご意見がありました。

それから、子ども同士の関係のなかで、具体的に言えばクラス替えができるような一定規模が必要なのだろうというご意見もありました。

(藤村会長)	<p>P T Aの立場から言えば、P T Aを運営していくうえで、一定の関係が必要だというご意見もあり、また、部活動などといった課題を挙げられました。</p> <p>三ツ川委員からも、色々変遷はあるけれども、生徒ファーストという立場から考えたら、一定規模の学校、児童、生徒数は必要なのではないかと、これについてはご異議はございませんか。</p>
三ツ川委員	はい。
藤村会長	<p>それが、国が示すような標準規模がありますけれども、1つの基準にはなるのかなとは思いますが。</p> <p>小規模校の課題があり、これを何とか解消していかなければならないという点につきましては、ご賛同いただけますでしょうか。</p> <p>(「はい」の声)</p>
藤村会長	<p>1点めの問題については、このようにまとめさせていただきます。引き続き、2点めの同一小学校からの進学先の相違に移らせていただきます。</p> <p>現在、概ね解消されているとのことですが、従前に四條畷小学校で存在していたと伺っています。</p> <p>その辺り、当該校長の羽森委員、いかがでしょうか。</p>
羽森校長	<p>これも先ほど事務局から説明がありましたが、クラスのなかで大半の子どもが、四條畷南小学校で言えば四條畷南中学校に進学していたのに、一部の地区の子どもだけが四條畷西中学校に行くというような、進学先の相違が長年続いておりました。</p> <p>これにつきまして、保護者の方からは、私がいる間も、それ以前から、ナイーブにとらえられていたなと思い出します。</p> <p>やはり、少ない人数で他校の子どもたちのなかに入っていくということが、自分の子どもにとって非常に辛いことなのではないかと考えることは、当然だと思います。</p> <p>これについても事務局より説明がありましたが、住所を一時的に変更してまで、四條畷南中学校に進学できるようにする方も現れてくる。</p> <p>これは保護者にとっても厳しい選択なのではないかなと私は思います。</p> <p>一時的に祖父母のところへ住所を移すとか、これまで色んなことをされる方がいらっしゃいました。</p>

(羽森委員)	<p>私たちはどこに住んでいるかということで進学先を決定しますので、それをもとにすれば、住所を一時的に動かしていただいてもいいのですが、その前に家庭のなかで、また子どもたちの心のなかで、辛いところがあったということを考えると、これも課題ではないかと思いました。</p>
藤村会長	<p>これについては、特に異論はないでしょうか。</p> <p>同じ小学校からみんな揃って同じ中学校に進学していく方がいいということで、まとめさせていただきます。</p> <p>次に、3点めの、校舎の老朽化についてですが、現状をもう少し詳細にお願いします。</p>
板谷教育総務課長	<p>校舎の老朽化について、維持管理の観点から、現状をご説明申し上げます。</p> <p>学校再編整備計画（案）7ページ以降にお示しのとおり、市内小中学校においては、いずれも建設から40～50年が経過しており、学校運営上の支障をきたす問題が多々発生してきている状況でございます。</p> <p>具体的には、外壁の剥離、校舎及び体育館の雨漏り、配管の破裂、プールの濾過機の故障、高架水槽やエレベータ、高圧受電設備の不具合等、施設、設備の老朽化に起因するものが多くを占めており、近年に大規模改修を行った、岡部小学校等を除き、総じて喫緊に改修が必要という状況となっております。</p> <p>それらのハード整備につきましては、非常に大きな費用を伴うことに加え、子どもたちの未来を見据えた教育ということを考えますと、今後、益々のソフト整備が必要になることから、両方をバランス良く行っていくことが重要と認識しております。</p> <p>今後につきましては、現在、ご審議いただいている計画に基づく学校再編に加え、施設、設備の順を追った改修に努めてまいりたいと考えております。</p>
藤村会長	<p>これについても、なるべく早い段階で改修が必要です。</p>
堀委員	<p>校舎の老朽化についてですが、四條畷西中学校は、大規模改修を行いました。それまでは雨漏りが非常にたくさんあり、天井もたくさん穴が開いていて、窓を開けようと思っても窓が開かない、ライトが暗かったり、体育館のライトが切れている、そういう環境でした。</p> <p>このなかで学習活動を昨年まで行っていました。今年度、すべて変わっていくなかで、教室のライトをLEDにして明るくなった環境</p>

<p>(堀委員)</p>	<p>での授業になり、子どもたちの楽しい雰囲気、明るい雰囲気で溢れるようになりました。</p> <p>そういった意味で、老朽化という問題は、どこの学校も急ぐ問題だと思いますし、力を入れてやってほしいとお願いしたいということは、他の学校長も同じ気持ちだと思います。</p> <p>学校が新しくなると子どもたちが変わります。</p> <p>四條畷西中学校が実際にそれを実感して、子どもたちの変化をとらえています。</p> <p>新しい体育館ができた時、子どもたちから歓声が上がりました。</p> <p>予算とか色々な問題があるかとは思いますが、1日も早い老朽化の解消を望んでいます。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>堀委員からご意見をいただきました。</p> <p>財源の問題はありますが、これまでの生徒ファースト、子どもファーストという点から言えば、より豊かな教育環境を作っていただきたいのが誰しもの願いですので、ここは教育委員会に最大限努力いただいて、何とか子どもたちにより良い環境を作ってほしいと思います。</p> <p>日本の学校は教室の環境が酷いですね。</p> <p>いくつか外国の学校を見てきましたが、日本の教室の狭さ、40人入ったら身動きができない、なおかつ、教室や廊下の暗さ、ちゃんと検査はされているんでしょうが。</p> <p>より良い環境を教育委員会の方で、ご努力いただきたいと思います。</p> <p>老朽化の点について、自主防災や防犯というお立場から、和田委員、ご意見があればどうぞ。</p>
<p>和田委員</p>	<p>中野新町の自主防災です。</p> <p>四條畷南小学校が残るということはありがたいです。</p> <p>なくなってしまうたら、中野新町には公園も何もありませんので、避難するにも避難場所がなくなります。</p> <p>今の話で、四條畷南小学校は残るということなので、そこは安心ですが、防災面で言うと、今の四條畷南小学校の体育館だと、防災に何の役も立ちません。</p> <p>トイレは全部外にあって、先日の台風のように、外に出たくても出られない場合、許可をもらえば学校のなかのトイレを貸してもらえますが、それも許可がもらえないと使えません。</p> <p>あくまで避難所のトイレは外になっていますので、外に出なければなりません。</p>

<p>(和田委員)</p>	<p>また、体育館には空調設備がありませんので、夏や冬はいてられません。</p> <p>防災面でも、もう少し、体育館に避難するよう言われますが、そういう面も考えてもらわないと、夏は窓を開けたら蚊が入ってくるし、もう少し考えていただきたい。</p> <p>ましてや、高齢化が進んでいる現状で、冬でなくても体育館は足が冷たいので、体育館に避難すると余計しんどいとの意見もあって、僕も防災をやっていますが、みんなの意見を聞いていても、防災はこれだけの予算だとわかってはいるけれども、なかなかお金の問題だけにはできません。</p> <p>学校は学校関係のものしか置いてないですし、もう少し防災の方にもテコ入れをしてもらわないと、僕が防災の会長を始めてもう10数年経ちますが、1つも変わっていません。</p> <p>何度も市長に言って、防災に力を入れるとは言ってくれるのですが、実際には進んでいません。</p>
<p>川端委員</p>	<p>今の防災の件ですが、テレビで避難所を見ることもあると思います。</p> <p>その時に、情報の提供として、テレビを置いて情報を提供されていると思います。</p> <p>先日の台風24号の時に、8時半頃だったと思いますが、避難所を除きに行きましたが、何もありませんでした。</p> <p>テレビどころかラジオも置いてませんでした。</p> <p>それでは情報はどこから入ってくるのかというと、持っていらっしやったのは無線機1台だけです。</p> <p>見に行ったのは四條畷学園で、私のところの町内からも5、6人が避難していましたが、アルミのシートの上に座っているだけでした。</p> <p>倉敷市や岡山市などの避難所がテレビに映っているところを見ると、みんなテレビを見て、情報を取得しています。</p> <p>そんな何も無いところに避難して、避難してきた人は次の日までどうするんだろうと思いながらその日は帰りましたが、次の日に聞くと、やはり体育館だからそういった情報が入ってくるものは何も無いということなんですね。</p> <p>今後、11月になったら市長部局が意見交換会を行うと聞いており、その時にまた話はしたいと思っておりますが、仮に簡易のテレビを持って行って設置してあげたら、避難してきた人も見られると思います。</p> <p>そういうのをしてあげないと、この前、四條畷学園に避難された方は避難所が開く前の朝9時から、翌日の朝7時くらいまでいたと聞いています。</p>

(川端委員)	<p>水だけは市から支給されたとのことでした。</p> <p>その辺も、先ほどの防災の関係でいけば、四條畷市は防災の問題も抱えているということを確認していく必要があると思います。</p>
藤村会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>防災の問題については、また、市長部局とご議論いただきたいと思いますが、今回は校舎の老朽化に伴ってどうなのかというご意見をいただけたらと思っておりますので、今いただいたご意見も踏まえながら考えていきたいと思っております。</p> <p>案件1で言えば、これまでご意見いただいた3つの課題については、引き続き重要な課題であり、この観点に沿って対策を考えていかなければならないということで、まとめたいと思っております。</p> <p>それでは続きまして、案件2 公共施設再編に向けた市長部局の動向について、ご説明いただけますでしょうか。</p>
南森施設再編室長	<p>資料は特にございませませんが、公共施設再編に向けた市長部局の動向についてご説明申し上げます。</p> <p>公共施設等の個別施設計画を策定するにあたり、市民皆さまからのご提案やご意見を計画素案に反映させたいため、公募市民と市民団体から推薦いただいた方々、20人で構成する市民ワークショップを、本年8月8日から10月10日まで計5回開催いたしました。</p> <p>本ワークショップでは、公共施設に係る課題や今後求めるもの、個別施設ごとに維持、複合化、集約化していくもの、また、これらの最適な立地場所などに関し、種々検討を行っていただきました。</p> <p>なお、公共施設再編の今後の進め方に関しましては、11月初旬から中旬にかけて、小学校区単位で市長と市民との意見交換会を開催いたします。</p> <p>そのなかでは、本市における人口減少や老朽化が進む公共施設の現状などを説明するとともに、ワークショップでいただいたご意見やご提案なども紹介しつつ、公共施設の複合化や集約化などの最適配置に対する本市の考え方に対し、市民の皆さまから広くご意見などを聞かせていただく予定としております。</p> <p>その後、いただいたご意見などを総合的に勘案したうえで、来年1月頃を目途に個別施設計画（素案）を策定する予定としております。</p>
藤村会長	<p>ただいま、これまでの経過、ワークショップについて説明がございましたが、これについて何かご意見、ご質問があればどうぞ。</p>

<p>藤村会長</p>	<p>(「なし」の声)</p> <p>次に、案件3 計画(案)に記載する整備に向けた着眼点と適正配置(案)についてを議題とします。</p> <p>これについては、4つの観点から議論を進めていきたいと思いません。</p> <p>まず1つめは着眼点ですが、先を見越した、少なくとも一世代先を見通した施設整備についてです。</p> <p>2つめは、これもお金がなければできない話ですので、限られた財源のなかで、教育内容の充実に向けての施設整備についてどのように進めていくのかということです。</p> <p>特に、箱ものとソフト面について必要になってくるという点からこれが2つめの観点です。</p> <p>3つめが、安心安全に配慮しつつ、多機能化を果たす施設整備についてです。</p> <p>4つめは、市長も言われているとおり、保護者、地域住民との対話によって計画内容を適宜改善しながら進めていきたいということについてです。</p> <p>この4つの観点について、それぞれご意見をいただきたいと思いません。</p> <p>まず1点め、整備に向けた着眼点についてですが、一世代先を見通した施設整備についてです。</p> <p>先ほどからご説明いただいているように、中期的に人口予測を見ると、全体として人口は減少傾向にあります。</p> <p>このような人口動態や地域のまとまりに配慮した校区設定などを加味しながら、本来あるべき施設整備について、どうあるべきなのか意見を求めたいと思いません。</p> <p>まず、はじめに、大野委員、守口市で教育行政に携わっておられて、段々と学校の規模が小さくなっていき、統廃合された経験もお持ちで、現在校長先生をされているということですので、守口市の状況について教えてください。</p>
<p>大野委員</p>	<p>守口市は、15年前から少子化に伴う学校規模適正化のために、小学校5校、中学校2校を再編整備、統廃合を含めて行いました。</p> <p>平成15年当時、子どもたちは小中併せて約13,000人の在籍数でしたが、現在では、10,000人を切りました。</p> <p>そんななか、今までの議論でもありましたが、子どもの数の減少に</p>

(大野委員)

より、単学級をクラス替えのできる複数学級にしようということが、統廃合の課題で、この四條畷市と同じように、審議会を立ち上げました。

直近では平成23年に審議会を立ち上げて、学校の再編を進めてきました。

実際には、それだけの学校を減らすなかで、先ほどの議論にもありましたが、守口市は校区のねじれが少なく、当時10校中学校がありました。すべての中学校区内の小学校は、その校区の中学校に進学していました。

守口市も公民館等の再編整備を3年ほど前から進めていますが、小学校が18校あったなかで、公民館が10館1分室ありました。

それが今、教育委員会の所管から離れ、市の管理のもと再編整備されていますが、基本はコミュニティの場としての新しい施設として建て替わったところ、既存の施設をそのまま残したのも多々ありますが、そういった公共施設の再編も守口市では今進められています。

15年経って、本校は今、義務教育学校になっているのですが、暗に学校規模とか、単学級では子どもたちの発達が適正に望めないというだけではなくて、新しい考え方、1つの方法として小中一貫教育ということで、小学校の6年間、中学校の3年間と見ずに、9年間と見ながら子どもを育てていきたいと思います。これは新しい学習指導要領にも現学習指導要領にも示されていますが、そういう考え方をベースにして学校づくりや、地域の支援を求めていこうという考え方が平成15年から、そして平成22年の審議会答申のなかに示されています。

だから、四條畷市の案で出ている、例えば四條畷中学校と四條畷西中学校の校区のねじれをなくして、それぞれの中学校に進学する。

これが先を見た時に、中学校区で子どもたちを育てましょうという、地域を巻き込んで、もちろん学校関係者や保護者も含めてですが、そういうような教育のソフト面、それと環境設備を含めてやっていければ、ある程度、人口動態もありますけれども、子どもが微増になる場所もあれば、極端に子どもが減る場所もあるので、そういう考え方が1つの方法かなと思います。

P T Aのこともありますが、実は本校は、小学校と中学校が一緒になりましたので、小学校と中学校のP T Aも1つにすることができました。

当然活動も違っていました。子どもたちが1つの学校生活を送る1つの組織にする準備を進めました。

それから、前回、三ツ川委員がおっしゃられていたように、さつき

<p>(大野委員)</p>	<p>学園校区はもともと小学校が2校あって、国道163号ではないですが、内環状線を間に挟むなか、それぞれの青少年育成組織がありましたが、学校が1つになるとういこと、1つの組織になりました。</p> <p>そういう、子どもを育てていくという先を見据えて、地域の方々にも協力してもらい、それは地域の方々に理解をしてもらわなければならないのですが、1つは、子どもたちの育ちを9年間という先を見通してやっていくということと、地域の方が学校も含めて、中学校区のなかで子どもたちを育てていこうという考え方を持っていただければいいのかなと。</p> <p>守口市はそういう形で、年数はかかりましたが、現状、小学校は13校になりました。</p> <p>中学校は7校になり、義務教育学校が1校となりました。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>小学校、中学校の9年間の義務教育を見通して、子どもたちの育ちを考えているということですね。</p> <p>考え方として、中学校の校区を大切にしていると。</p>
<p>大野委員</p>	<p>そうですね。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>大野委員に、何かご質問はありますか。</p>
<p>藤谷委員</p>	<p>小中一貫校について、私はまだピンと来ていないのですが、行事ごとはすべて、小中一緒に行うのでしょうか。</p>
<p>大野委員</p>	<p>いいえ。</p> <p>当校で一緒にやっているのは、たとえば運動会ですね。</p> <p>校外学習は学年ごとにやっていますし、運動会も先ほど、小さい学校はというお話がありましたが、当校は各学年2クラスですので、運動会は今年は各学年で演技を行っていましたが、今年は3、4年生だけ一緒に演技を行いました。</p> <p>60人程度で行う演技と、100人を超えた人数で行う演技であれば、ねらい等があれば、学年ごとに決める必要はないかなと思います。</p>
<p>藤谷委員</p>	<p>ということは、小学1年生から中学3年生まで一緒に運動会をやるということですか。</p>
<p>大野委員</p>	<p>はい、そうです。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>どれくらいの規模が適正だと思われませんか。</p>

大野委員	<p>一応、国から出されている適正規模のなかには、小中一貫校でも12から18学級というのは示されているので、全体の学校の子どもの数としては1,000人を超えると難しいように思います。</p> <p>例えば、先生が子どもたちの全体を把握できないとか、管理職が1,000人を超える生徒を把握することは非常に難しくなってくると思いますので、多くても800人程度の規模の学校がいいのではないかと考えています。</p> <p>本校は、1年生から9年生までで約600人です。</p>
藤村会長	校長先生は1人ですか。
大野委員	1人ですね。
藤村会長	教頭先生等はいかがですか。
大野委員	<p>当校の場合は、校長が私で、副校長というものが1人います。</p> <p>教頭先生は、それぞれ小学校を経験された教頭先生と、中学校を経験された教頭先生と2人います。</p> <p>最終に責任を持つのは私、という形になっています。</p>
藤村会長	<p>国の動向や、全国の自治体の動向はどうですか。</p> <p>そういう流れにあるのですか。</p>
大野委員	義務教育学校で言えば、平成28年に本校が開校しましたが、その時に義務教育学校として開校したのは13都道府県で22校です。
藤村会長	それは全国でですか。
大野委員	<p>はい、全国です。</p> <p>今年に入って、文部科学省の方からのお話では、現在、義務教育学校は80校、小中一貫校は形態はさまざまですが250校くらいあるとのことでした。</p>
藤村会長	<p>それはどういった背景ででしょうか。</p> <p>どんな理由があって、小中一貫校に、小学校中学校併せて一体化するということになるのでしょうか。</p> <p>小規模化が原因なのでしょうか。</p>
大野委員	守口市は、小規模化の解消だけとはあまり捉えているのではなく

(大野委員)

て、新しい教育の考え方としてとらえていて、小中一貫教育がすべてではないですが、子どもの育ちを6年生で切って中学校へ繋げる時に、うまく繋がらないことがたくさんあったんですね。

先ほど不登校の話もありましたが、本校でも小学校の教員と中学校の教員が一緒になった時に、小学校の教員は、6年生は6年生でその学校の最上級生なので、しっかり育て欲しいという思いを持っていました。

でも、中学校に行ったら、その子たちはまた1番下になるので、そこまで築いてきたモチベーションが、また中学1年生になると下がってしまうんです。

教科の担当制もひっくるめてですが。

そうではなくて、6年生は6年生でつきたい力があって、その後の7、8、9は、その積上げだという考え方でいった方が良さだろうということが、学習指導要領でも出ているので、そこがベースになっていると考えます。

ただ、どうしても小規模の学校が増えてきたので、学校を併せることで小規模化の解消ができますが、でも、先ほども色んなご意見が出ていたように、それだけが理由で小学校の統廃合というのは、なかなか難しいです。

小学校は地域に密着しているので、それが、こちらの学校はなくなり、他方の学校は残るということは、守口市でも非常に課題になりました。

ですのでやはり、小規模校化の解消だけを見るのではなくて、9年間のつながりとしてみるという新しい教育の考え方をそこへ入れ込んで、学校づくりをしていくという視点でというところが背景になると思います。

藤村会長

簡単に言うと、というのも少し違いますが、統廃合の問題ではなく、新たな学校のあり方、と考えていらっしゃるということですね。

少し戻るかもしれませんが、提案どおりでいきますと、四條畷南小学校が小規模校として残るという形になります。

国の方からも、弾力的に地域需要によって考える、ということが法律で述べられていて、小規模校のメリットを最大限生かしながら、デメリットを最小化しようと、様々な方策を考えているというのが、文部科学省から出ているてびきに記載されています。

この間、ずっと学校教育現場にお勤めになられて、見識をお持ちかと思いますが、副会長からご意見ございませんか。

小林副会長

少し話が飛ぶかもしれませんが、まず、市があつてこそ学校は運営されるのではないかなと思うんです。

人口が2万人くらいの自治体では、自治体に1校しか学校がなく、役場の横に学校があつて、全地域から通ってきているような学校もあるらしいです。

そうになると、有無を言わず、まとめてやっつけていかないと成り立たないということもあると思うのですが、私が最後、田原中学校で教頭として勤めさせていただいた3年間で切実に思ったのは、お金がないんだなということでした。

田原中学校は、市内4つの中学校のなかでは1番新しい学校でした。

設備も整ってスタートしたはずだったのですが、やっぱり色々な面で補修に追われてきます。

プールの浄化槽は騙し騙しで使用し、業者の方に、先生今年はいくらなんでもだめです、と言われながら3年、何とかやりました。

その時は、体育の先生は、休みの日も学校に来て、水質管理をちゃんとして、授業に備えておられました。

そういうなかでどの学校もやっていると思うのですが、お金がないと言われたら、自分たちでできることも限られてきます。

また少し飛ぶかもしれませんが、私は大東市に住んでいるのですが、先日聞いたことによると、東大阪市は中小企業がものすごく力を持っていて、新しいことをやっている、工業化に力を入れているということですが、ざっくりとした数字にはなりますが、東大阪市の1人あたりの工業生産高は1年間に200万円くらいで、大東市は250万円だそうです。

大東市はそんなに工業が盛んなのかなとも思うのですが、四條畷市は25万円ということでした。

それくらい、四條畷市というところはお金が生み出せない市なんだなと思いました。

実際に予算はどうかというと、これもざっくりですが、大東市は12、13万人くらいの人口で、四條畷市が5万人くらいですかね。

予算規模で言うと、四條畷市は大東市の半分くらいしか予算がありません。

人口比で言うのなら、半分あれば、まだましだと感じるかもしれませんが、さっきも出ていたように、大きくても小さくても必要なものは必要だとあつたように、市のなかでも学校でも必要なものは必要なのです。

これを考えると、四條畷市は本当に厳しいなかでやってきているということが実感です。

(小林副会長)

そして、私は図書館の会議にも出席させていただいていますが、これからの人口推移をみた時に、四條畷市の公共図書館を1番利用している年齢層は、60歳以上なんです。

子どもの読書推進と言いながら、1番利用されているのは高齢者であって、そういった高齢者のニーズが増えていくし、そのニーズに応じていかなければならない。

我々は、子どもをもって、子どもを教えて、学校という視点でものを見て、良かれと思ってやっていますが、学校をちゃんとやっていくためにも、市がトータルとして市民サービスをちゃんとできるようにしてもらわないといけないんだと。

その時に、お互いに譲り合ったり、痛み分けがあったり、我慢があったり、ということが必要なんだということを、私はこの会議に参加させていただくにあたって考えました。

これを考えると、保護者の要求で1番多かったのは、安心安全です。これは、学校がいくつあろうが、絶対に必要なことです。

2校であろうが、10校であろうが、安心安全は絶対に守らなければなりません。

それから、良い教育、これもそうです。

教員はしっかり教えないといけない。

ならば、後は、そういうことを保障するだけの財政が必要なわけで、そうすると学校は、縮小というか、統合していくことは仕方がないことなのかなと思いました。

これが大阪市内のように、1回縮小したけれども、たくさんマンションが建って、学校がたりないということもあるかもしれませんが、四條畷市については、中長期的な人口動向を予測されており、我々の実感としても恐らく減っていくだろう、また、高齢者のまちになるだろうということも考えられます。

そういうなかで、学校というものはやはり統合は仕方がないと、これは大前提です。

その後、どういう条件にしていくか、ということです。

校舎の整備のことについて出ていますが、2つの学校よりは1つの学校にした方が、費用は少なくて済みますので、今ある4つの中学校を3つにした方が、いいだろうと、7つの小学校を6つにした方がいいだろうということは、単純な考えですが、そうだろうと思います。

だから、それに向けて協力しつつ、あとは内容をしっかり考えていかなければならないと思っています。

あと、小規模校のことですが、田原中学校は初め、70人でスター

<p>(小林副会長)</p>	<p>トした学校で、私はその時はおりませんでした、1学年1クラスしかありませんでした。</p> <p>私が田原中学校に行った当初も、田原小学校からそのまま上がってくるだけなので、1クラスの小学校の6年間のなかで、大概レッテルを貼られます。</p> <p>小学校の6年間はすごく成長の幅が大きいのに、小学2年生の時にお漏らしをしたら、6年生までずっとそれがついて回ることもあります。</p> <p>逆に、あの子はリーダーだと言われたら、本当はその子の適性でなくても、無理にでもリーダーをやらざるを得ない、それが学校のなかの先生と子どもたちだけじゃなくて、地域も含んでそういう雰囲気になりかねないんですね。</p> <p>それを卒業して、小中学校の段差も抱えながら中学校へ入ってきて、またその繰返しになりやすい、気持ちの切替えが難しい、ということを見ると、今まで色々デメリットが出てきましたが、それにプラスして、小規模というのは回避した方がいいと思います。</p> <p>そうすると四條畷南小学校はどうするんだということになりますが、そこは優先順位をどこにするか、南東の地域にコミュニティの施設が絶対に必要なんだということであれば、四條畷南小学校をどのように地域で包み込んで中学校へ繋げるような小学校にするか、ということをお大人たちが考えていくことが必要なんだと思います。</p> <p>私は個人的には、四條畷南小学校の存続については、仕方がないかなと、回避できないかなという気がします。</p> <p>そんななかで、義務教育学校についての話も出ますが、義務教育学校も意義はあると思います。</p> <p>ただ、守口市と四條畷市は規模が違い、守口市は統合後も小学校は13校ありますが、四條畷市は小学校が7校しかなく、同じ塾に通っている子どもたちのなかで、少しシステムが違う学校に通っている子どもがいるということに対して、そんなに極端なことはないと思います。</p> <p>これからの四條畷南小学校の人口推移がどうなるか、さらに綿密な計算をして、不公平感が出ないような方法を考えながら、義務教育学校については、さらに研究を重ねるべきではないかなと思います。</p>
<p>三ツ川委員</p>	<p>大野委員に質問をよろしいでしょうか。</p> <p>小中一貫校を15年前から検討されていたということですが、私がお聞きしたいのは、大阪府は全国平均からすると学力が下位のほうにあると思います。</p>

(三ツ川委員)	<p>小中一貫校をされた結果、守口市は大阪府のなかでどのくらいの位置に上がったのか下がったのか、いかがなのでしょう。</p>
大野委員	<p>学力テストについては、今年は中学校に理科と国語と数学があり、小学校は国語と算数がありました。</p> <p>学力テストは、学力の一部を示しているものになりまして、市のなかでどうという問題ではないのですが、守口市の現状でいきますと、全国平均でいくと、やや下回っています。</p> <p>小学校は大体横ばい、中学校は全国を超える教科もありますが、トータルでいくと全国をやや下回っています。</p> <p>ただ、学力テストが始まった平成19年と比べると、右上がりにあるというのが守口市の状況です。</p> <p>当然、本校は開校3年めで、小中一貫教育を具体的に市として始めたのは平成26年からになります。</p> <p>そのなかで当然、学力は守口市の課題なのですが、先生方のなかには小学校の先生は中学校で最終的に高校受験があったりですとか、進路選択があるので、そういうものを見通して、小学校、中学校の先生から、色んな教科の研究をしてもらいましょう、というのはずっと関わってきています。</p> <p>私の学校は3年めなのですが、多少学年の、6年生と中学3年生については、学年の状況にもよりますが、これから先生方の指導のなかで、そういう学力的なものも解消されていくだろうなとは思っています。</p> <p>ただ、国語、算数(数学)という2科目だけをとらえて、伸びた伸びてないという面では一喜一憂しないようにはしています。</p> <p>学力的なところだけではなく、例えば本校は小学1年生と中学3年生と一緒に生活をしていますが、子どもたちは非常に明るく、にこやかに、毎日生活をしているのと、先ほどクラブ活動のことがありましたが、クラブ活動は中学1年生、7年生からやっていくので、そこに小学生は入れないのですが、子どもたちが部活をしている様子を見ながら、小学校の子どもたちがそれを憧れのまなざしで見ているとか、一緒に運動会をやる時でも、9年生が走っている姿をみるとか、そういう子どもたちの発達の面ではめざす姿になったりということはありません。</p> <p>また、上級生たちは、日頃同じ生活のなかで過ごしていて、使う施設や場所を決めているわけではないので、小さい子どもたちが何か重いものを持っていたらてつだってあげるとか、そういうところは自然と身についていくような気がしています。</p>

<p>三ツ川委員</p>	<p>大きな意味で言うと、先ほど副会長がおっしゃられたとおり、お金がたりないと、会長は、世界各国の学校を見てこられたとお聞きしていますが、OECD（欧州経済協力機構）35か国のなかで、日本は、GDPに対する公財政教育費は1番少なく、最下位なのです。</p> <p>GDPは世界3位にも関わらず、教育費は3.5%しかありません。本当は教育費にけるお金は5%なければなりません。</p> <p>たりないことは仕方がない話だと思いますが、ここで言う話ではないかもしれません。</p> <p>教育は国の宝だと思います。</p> <p>子どもを教育するということは、国自体の活性化を図ることに繋がります。</p> <p>私が何を聞いたかったのかというと、先ほど副会長がおっしゃられたように、日本は教育費は少ないし、なおかつ、小中一貫校にしたら、確かに省力化になって節約になり、何かにお金を使えるようにはなりますが、そのお金が教育に使われれば良いですが、別にものに使われては意味がありませんし、省力化する意味もありません。</p> <p>教育に使うためのお金を蓄財するという事はいいことですが、小中一貫校をしようというときに、学力が上がらずに下がってしまうのであれば、やる意味がないのではないかなと思います。</p>
<p>大野委員</p>	<p>例えば、9年間一緒に生活したからといってすぐに学力が上がるかということ、ほぼないと言っていると思います。</p> <p>教育50年と言われているように、これからの取組みの検証をおこなわなければなりません。小中一貫教育には色々な形がありますし、別に学校を離れていてもいいので、一緒に生活をした、ということが大切だと思います。</p> <p>今まで小学校と中学校が分かれていたことを、教える側が、小学校や中学校の先生が、もっと子どもの義務教育の9年間の育ちを見ながらやっていこうというのが、そもそもの考え方になるので、その辺については、守口市はそのように進めているところです。</p> <p>ただ、おっしゃるように、学力調査の結果が飛躍的に上がったというところまではいっておりません。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>今、小林副会長から、市あってこそその学校であり、限られた財源のなかでどういう方法が1番良いのか、小林副会長のご意見では学校再編もやむなしだろう、というお話がありました。</p> <p>そのなかで、少人数の問題点もご指摘されましたが、特に四條畷南小学校を中心に、今後の学校のあり方については、教育委員会にとしても慎重に考えてほしい。</p>

<p>(藤村会長)</p>	<p>守口市の例も参考にしながら、成果も上げておられるのですが、四條畷市としてどうなのかということは慎重に考えてほしいというご意見だったかと思います。</p> <p>何かご意見ございますでしょうか。</p> <p>(「なし」の声)</p>
<p>藤村会長</p>	<p>3点めは、安心、安全に配慮しつつ、多機能化を果たす施設整備について、学校はどうあるべきなのかということです。</p> <p>先ほど、防災という観点からご意見をいただきましたし、地域にとって学校はどうなのかという議論もあったと思いますが、これに加えて何かご意見ございますでしょうか。</p> <p>(「なし」の声)</p>
<p>藤村会長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>先ほど、色々な意見を言っていたと思いますので、この件については、ご意見を伺ったことといたします。</p> <p>最後に4点め、保護者、地域住民方々との対話により、計画内容を適宜改善についてです。</p> <p>これまでのアンケートの結果のご紹介もあり、進学先のねじれについてもご意見がございました。</p> <p>教育委員会としては、可能な限り改善を図っていきたいという考えに変わりはないと思いますが、保護者の皆さま、あるいは学校関係者の皆さまから、今後の進め方等について何かご意見ございますでしょうか。</p> <p>教育委員会からは、先ほどから意見交換会等を実施する予定というお話があり、更に広く意見を求めていきたいということに変わりはないと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>丹治委員</p>	<p>1点だけよろしいでしょうか。</p> <p>四條畷南小学校で見学会と説明会があるとなっていますが、四條畷東小学校も、今、地区によって不安定なところがあると思います。</p> <p>川崎地区と塚米地区がどうなるかによって動向が変わってくると思います。</p> <p>正直なところ、四條畷東小学校の保護者もそうですし、市内全域の保護者が、ここまで決まっているという現在の状況をどれだけ知っているのかな、という気持ちがあります。</p>

(丹治委員)	<p>現段階の状況の説明会というのを、当該校はもちろんなのですが、もう少し広く周知できるようにしていただいた方がいいのではないかと、ということをご提案というか、お願いしたいと思います。</p>
藤村会長	<p>今後進めていく説明会の予定について等を、事務局から説明をお願いします。</p>
開教育次長	<p>審議会におきましては、時系列で整理をさせていただいており、1月19日(月)を最終と予定しています。</p> <p>その後、教育委員会定例会を経て、いただいた答申内容をもとに判断していくこととなっており、それらの決定事項については、12月早々に、前回意見交換会をさせていただいた四條畷小学校、四條畷東小学校及び四條畷南小学校の校区を対象に、再度、今度は報告会のような内容を持って、ご説明に上がろうと考えています。</p>
藤村会長	<p>よろしくをお願いします。</p> <p>案件3については、以上でよろしいでしょうか。</p> <p>次に、案件4 小規模校の解消と当面の対応策についてを議題といたします。</p> <p>先ほども、教育委員会が示す3つの課題のなか、ご説明をいただきましたが、これについて補足のご意見やご質問等ございますでしょうか。</p>
上村委員	<p>小規模校の解消というのが、四條畷南小学校が1番該当するところだと思います。</p> <p>三ツ川委員だったり、塚米地区のなかの塚脇地区と呼ばれているところが、今、四條畷東小学校に通われていると思います。</p> <p>当然、教育委員会側としては、美田地区も踏まえて、地区内で校区のねじれが起こっているところの早急な意見の収集をお願いしたいのと、同一小学校に変更されるようであれば、多少ですが、四條畷南小学校の人数が増えるのではないかと考えます。</p> <p>また、行政的なところでお願いしたいのは、都市基盤の整備であったり、四條畷南小学校地区に若い家族が住みやすいまちになるよう力を入れていただきたいと思います。</p> <p>このような、四條畷南小学校の人数が増えるような動向を、地域と行政とで力を合わせてできるような方向へ持っていければいいかなと思います。</p> <p>それによって難しいところが、塚脇地区であっても、四條畷南小学</p>

(上村委員)	<p>校を指定校としてやるのか、畑中地区というところがありますが、例えば、そこの子と仲が良くて、次のこの転籍の時に、四條畷小学校に友達が行くから四條畷小学校に行く、もしくは四條畷南小学校に行けるなら行く、というようなことも起こる得ると思うので、その辺も残りの審議会で話し合っていきたいと思っています。</p>
羽森委員	<p>先ほど、上村委員がおっしゃる前にお話したかったのですが、小規模校のデメリットを解消していくために、先ほど申し上げたようなことが解消される1つの要素が、人的配置だと思います。</p> <p>教職員の数というのは子どもたちの数で決まっていますが、それプラス市から、何かしらの職員の増員をいただければ、学校運営上、非常に助かるのではないかなと考えます。</p> <p>この案にも出ていますが、それが、私としては非常に大事なことに1つだと思っています。</p>
藤村会長	<p>運営されている校長先生の切実なご意見をいただきました。</p> <p>教育委員会としても、検討していただいているとのことですので、ご対応をお願いします。</p>
開教育次長	<p>この件につきましては、本日の審議会始めにご説明があり、そのなかで、子ども、学校、保護者、その他の立場でご議論いただきました。</p> <p>教育委員会としましては、先ほど羽森委員からご提案いただきました人的措置に加えまして、小規模校ならではの特性を生かした、デメリットをメリットに変える、もしくはデメリットを最小化するという点で、例えば今後進められていくICT教育で言えば、児童が少ないが故に、容易に環境の整備ができるという点があります。</p> <p>そういったところを全面的に押し出しつつ進めていきたい、このように考えております。</p>
藤村会長	<p>メリットを生かしていく、支援していく方策について検討していきたいというお話でございました。</p> <p>全体を通して、何かご質問等ございますでしょうか。</p>
丹治委員	<p>四條畷東小学校のことなのですが、今後閉校します。</p> <p>四條畷小学校に行くにあたって、保護者の意見として、四條畷東小学校は私服登校です。</p> <p>決められているものは、登校時の黄色の帽子、通学の時に被る帽子のみで、後は、体操服があるくらいです。</p> <p>四條畷小学校には、標準服というものがあるらしく、普段は私服で</p>

(丹治委員)	<p>行っているけど、式典や始業式、校外的なところに行く時などに着る、という服があるみたいです。</p> <p>そうすると、保護者から確実に要望が上がってくると思います。 小学6年生で転籍する子が、なぜ1年間のために買わないといけ ないのか、というところで苦情が上がってくると思います。</p>
藤谷委員	<p>そこについて、四條畷小学校の保護者からもお聞きしますが、なぜ四條畷小学校だけ、式典のためだけに制服を用意しないといけないのでしょうか。</p>
丹治委員	<p>根本からのお話ですね。</p> <p>もし今後も四條畷小学校が標準服を使用するということが変わらないのであれば、何かしらの補助的なものがないのかなと思います。 四條畷南中学校が四條畷中学校に転籍する時に、制服が変わるとい うことで、1回のみでチケットのような形で補助が出たと聞いていま す。</p> <p>知っている方は、なぜ小学校の時は出ないのかとなると思います し、予算面のこともありますので、早めにご審議いただきたいとい うことが1点です。</p> <p>制服と含めて、黄帽子も変わりますし、体操服も変わります。</p> <p>また、四條畷東小学校区から四條畷小学校区に行くのに、国道163号を跨ぐかくぐるかしなければなりません。</p> <p>恐らく、集団登校をする時に、上から行く、国道163号の横断歩道 をそのまま渡るといことは、安全上しないと思います。</p> <p>アンダーパスがあるのですが、そこを通るにしても暗かったり、雨 が大量に降った時の浸水のリスクも考えると怖いなと思います。</p> <p>そこにパトロールや警備員といった人的配置だとか、四條畷南中 学校から四條畷中学校の転籍の時にある程度の防犯カメラはつけて いただいていると思いますが、更に小さい子どもたち、小学1年生から 6年生までが通ることになるので、このところも、お金のことばかり で申し訳ないですが、予算的な配慮をいただきたいと思います。</p> <p>あと1つ、また大きいお金になるのですが、四條畷南中学校が休校 する時に、休校式というような形で、子どもたちがいい思い出を持 って、自分たちが今までやってきたことをそのまま生かして次の学校 に行こうと、大きな壮行会的なものが開かれました。</p> <p>四條畷東小学校の場合、休校ではなく閉校、廃校という形になっ てしまうので、もちろんそれはしたいな、というのがPTAとしても、</p>

<p>(丹治委員)</p>	<p>学校としても多分思ってくださいと思っています。</p> <p>ただ、四條畷東小学校はずっと小規模校だったので、PTA予算というものが、四條畷南中学校と比べても本当にはないんです。</p> <p>今回、この審議会があるということで、PTAの会計さんに使えるお金がどれだけあるのかというのを一応確認させていただきましたが、今までの周年積立金などを全部かき集めても、100万円あるかないか、というところでした。</p> <p>100万円だと、保護者が動き回ってすべての準備をして、子どもたちにもてつだってもらって、じゃないと事業的なこともできないくらいの予算です。</p> <p>四條畷南中学校の時は、それが全て振る舞われたような形になったと聞いています。</p> <p>生徒たちにも、保護者たちにも、全部無償で振る舞われたと。</p> <p>同じような形をとるとすると、到底、PTAの持っているお金だけではたりませんので、もし、市から、私たちが行きたくて行くわけではないので、正直、周りの色々な都合によって行くことになる、閉校せざるを得ないというところもあるので、補助という形で出していただけなのであれば、2、300万円、少し多めには言わせていただいています。</p>
<p>上村委員</p>	<p>いや、でもそれくらいの金額は必要になってくるかと思っています。</p>
<p>丹治委員</p>	<p>記念品だとか、ということも考えると、どこまでのOBの方まで絡んでくるのか、それは予算によってどこまで絡めてくるのか、OBの方まで配るのか、ということにもなってくると思いますが、たくさんあれば諸先輩方にも、四條畷東小学校はなくなってしまうんです、今までありがとうございます、と記念品もお渡しすることができるのかなど。</p> <p>できるだけのご配慮をいただけたらなと、よろしくお願いします。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>学校の統廃合等を進めていくと、様々な課題が出てくるだろうと、標準服の話から始まって、安全面、そして最後、セレモニーなど、教育委員会としては考えていらっしゃると思いますが、課題の洗い出しをきちんとしていただいて、子どもたちや保護者に何らかの支援ができるような方策を考えていただけたら、という要望だったと思いますので、受け止めていただけたらと思います。</p> <p>あと全体としてよろしいでしょうか。</p>

	<p>(「はい」の声)</p>
開教育次長	<p>最後に、本日いただいたご意見を、事務局で整理をさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
藤村会長	<p>どうぞ。</p>
開教育次長	<p>まず、4回という限られた審議会のなか、11月19日の最終の答申を見据えて、まとめが必要だと考えております。</p> <p>そのなかで、本日、本格的な議論に入ったわけですが、総体的なご意見として、教育委員会が掲げる3つの課題については、平成27年3月策定の教育環境整備計画からの変遷であったり、差異が生まれている状況ではありますが、ご理解いただけたと認識しています。</p> <p>加えて、学校教育を軸にしつつ、施設の主な活用を図りながら、まちの魅力創造、ひいてはまちの発展をめざしていくということは、皆さんの意見から感じたところ です。</p> <p>また、意見を2つに分けさせていただきたく、1つは計画に盛り込む意見、もう1つは、計画を進めるに際して付すべき意見という形をとるのはいかがかと思っています。</p> <p>計画に盛り込む意見としましては、計画の14ページをご覧ください。</p> <p>1番下の追加すべき3つの条件ということで、将来の年少人口増に備え、中長期的に、四條畷南小学校敷地に義務教育学校、もしくは小中一貫校の設置を検討と記載しています。</p> <p>この部分につきましては、大野委員をはじめ、様々ご意見をいただきました。</p> <p>加えて、中長期的に進めるに際し、中学校区をまとまりとした地域教育の推進にも努めなければならないとのご意見をいただきましたので、これを加味してはどうかと考えています。</p> <p>次に、15ページの1番上、③四條畷南中学校の廃校に伴い、防災拠点であったり、地域コミュニティの整備というところについてです。</p> <p>これについては、いただいた地域活性化の内容をもとに、現在の状況を踏まえ、限られた環境、情勢、昨今の災害状況等を鑑みて、四條畷南中学校を廃校するという考えに、市域を国道163号とJRで4</p>

<p>(開教育次長)</p>	<p>分割にして、国道163号以南、JR以東については、学校が担ってきた施設の特性と機能面の2つに分けて、地域の賑わい、活性化に繋がる方策を講じていくこと。</p> <p>これら2つが盛り込むべき内容かととらえています。</p> <p>また、計画を進めるに際して付すべき意見として、校区の見直しに関し、児童、生徒を中心に考えて、保護者の求めや課題に応じた方策を万全に期すること。</p> <p>こちらは個別になりますが、四條畷東小学校の廃校に伴いまして、四條畷南中学校の休校の際に我々が取り組んできた対策、対応等を参考に、円滑な転籍が可能となるよう、費用面、安全対策、円滑な廃校の式典等について、一定の予算を講じること。</p> <p>これらが今回のまとめと整理いたしました。 よろしければ、答申の枠組みとし、進めさせていただきたいと考えております。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>何かご意見ございますか。</p> <p>(「なし」の声)</p>
<p>藤村会長</p>	<p>それでは、本日の案件はすべて終了しました。 その他、事務局より事務連絡をお願いします。</p>
<p>板谷教育総務課長</p>	<p>次回の審議会につきましては、11月5日(月)14時から、市役所本館3階委員会室で行います。 第1回、第2回とは会場が違いますので、ご注意ください。 以上です。</p>
<p>藤村会長</p>	<p>それでは、これもちまして閉会いたします。 ご審議いただき、ありがとうございました。</p>